

## Safety Report

## セーフティポ 子ども②

## Honda の関連企業による周辺地域での交通安全活動

～事故の怖さを体験することで交通安全の大切さを学ぶ～

日信工業（株）はクルマやバイクのブレーキ装置などを開発・製造・販売している企業だ。本社がある長野県内で2012年から毎年、親子交通安全教室を実施している。この教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と子どもの行動特性を理解していただくことを目的としている。

7月22日、新潟県内では初となる第1回直江津地区親子交通安全教室を開催した。同社取締役生産購買本部長 小林敬一さんは「当社には新潟県上越市にも直江津工場があり

ますので、その周辺に暮らすお子さんと保護者の方にも交通安全を啓発していく必要があると考えていました。今回、地元の上越市役所や上越警察署、上越交通安全協会などの協力を得て、開催することができました。事故の再現をご覧いただくことは、お子さんの印象にも残りますし、保護者の方にとってもいろいろな気づきがあると思います。また、こうした活動を継続することは、当社全体の安全意識の向上につながっています」と話す。

会場となった直江津工場には親子49人が集

まった。指導を担当するのは同社のHondaパートナーシップインストラクター※（以下、HPI）。この日はトピーファスナー工業（株）と日本精機（株）のHPIも指導に協力した。交通事故の再現など（写真参照）を通じて、「道路を渡る前に止まって右、左、右を観て安全を確認する」「クルマに乗ったら、全席でシートベルトを着用（チャイルドシートを使用）」といった事故防止のポイントをHPIが説明する。小学2年生の子どもと来場した母親は「息子が通っている小学校から親子交通安全教室があることを聞き、参

第1回直江津地区親子交通安全教室は日信工業（株）とともに以下の企業が共催トピーファスナー工業（株）、日本精機（株）、浅間技研工業（株）、（株）都筑製作所、森川産業（株）、（株）三條機械製作所

加しました。話だけでなく、事故の再現やいろいろな実験が見られたので、どうすれば事故から身を守れるか子どもに伝わったと思います」と感想を語った。今回Honda関連企業災害防止協議会信越支部の企業（上記参照）が協力することで、これまで以上に有意義なものとなった。こうした連携によって、地域の交通安全活動のさらなる充実が期待される。

※Hondaパートナーシップインストラクター＝Hondaの関連企業内で交通安全指導を担うインストラクター。Hondaの交通安全センターでの養成研修を受講した関連企業の社員が認定される。



開会式では主催者を代表して日信工業（株）取締役生産購買本部長 小林敬一さんが挨拶した



HPIが親子に事故防止のポイントをアドバイス



人形を使った飛び出し事故の再現



シートベルトを着用していないと身体が前方に投げ出されてしまうことを示す実験

## Safety Info.

## インフォメーション①

## 日本自動車教育振興財団が高校への講師派遣メニューに「二輪車の交通安全」を新規に設定

（公財）日本自動車教育振興財団は工業高校や総合学科高校を対象とした自動車技術教育（自動車技術に関する教育）、および普通高校などを対象とした交通社会教育（「交通」「環境」「交通安全」など社会と自動車のかかわりに関する教育）を推進している団体だ。同財団では活動の一環として、高校が主催する研修会への講師派遣（講師は（一社）日本自動車連盟をはじめ自動車関係団体等から派遣）を無料で行っている。講師を派遣している研修メニューは「自動車技術」「環境技術」

「交通技術」「交通安全」の4つのジャンルがあり、全国すべての高校を対象に公募している。平成29年度の派遣件数は345校で、受講者は13万人以上に及ぶ。高校側からの要望が最も多いのは「交通安全」、なかでも「自転車・歩行者から見た道路交通安全」というメニューが全体の半数近くを占めている。そして、平成30年度より新規メニューとして「二輪車（バイク）の交通安全 高校生のためのSafety Riding（以下、二輪車の交通安全）」を追加した。その背景について、講師派遣を

統括する同財団部長 山本実さんは次のように説明する。「以前から、生徒の二輪免許取得を許可している高校の先生方から二輪車教育を実施してほしいという要望があり、それに応える形で今年度から設定しました。これまでの『交通安全』のメニューはすべて講演形式でしたが、『二輪車の交通安全』に関しては実技形式となっており、講師は（一社）日本二輪車普及安全協会から派遣いただいています。

研修を依頼した高校の1つが愛知県立足助高

等学校（愛知県豊田市）だ。同校教諭の角谷彰彦さんは「昨年度までは、実技講習は生徒をバスで自動車教習所へ送迎し実施していたので、生徒は自分が普段乗っているバイクで参加できないという問題点がありました。何とかできないかと考えていた時、日本自動車教育振興財団が二輪車教育を始めると知り、講師の派遣をお願いしたというわけです」と話す。

8月3日、同校で「二輪車の交通安全」が実施された。今回の講師は日本二輪車普及安全協会から派遣された愛知県の特別指導員3人が担当。原付で通学する生徒8人はブレーキングやバランス、コーナリングといった実技課題に取り組んだ（写真参照）。昨年度に続き参加した生徒は「教習所では法規走行が中心だったので、今回の内容は新鮮に感じました。自分のバイクで練習でき、日頃の安全運転につながると感じます」と感想を述べた。



正しい乗車姿勢が安全運転の基本であることを強調する特別指導員



ブレーキングでは前後のブレーキの特性をふまえて、安全に停止する方法を習得



コーナリングではカーブの限界速度を体験し、安全な速度でのカーブの曲がり方を習得



バランスでは低速走行の難しさを体験し、そのような状況での運転操作を習得



（公財）日本自動車教育振興財団部長 山本実さん

## Safety Info.

## インフォメーション②

## 「高校生の二輪車安全運転教育の充実」発行

（一社）日本自動車工業会および（一社）日本二輪車普及安全協会は高校生に対する一層の安全運転教育の充実を呼びかけることを目的として、7月に「高校生の二輪車安全運転教育の充実」と題したパンフレット

を発行。全国各地の教育委員会や都道府県警察本部等に配布し、理解の促進を図る。パンフレットでは、多くの高校で生徒の二輪車利用が禁止されているなか、地方都市では通学範囲の拡大により生徒や家庭の負

担が増大しているという現状などを紹介し、二輪車のメリットとリスクを生徒に理解させ、利用するかどうかを自分で考えられるオープンな教育環境が求められると指摘している。



「高校生の二輪車安全運転教育の充実」は以下のホームページで閲覧が可能。  
[http://www.jama.or.jp/motorcycle/environment/hss\\_safetydrive.html](http://www.jama.or.jp/motorcycle/environment/hss_safetydrive.html)